

小佐々 学先生の特別講演のお知らせ

日本愛犬史—ヒューマン・アニマル・ボンドの視点から—

日時：5月11日（土曜日）午後2時から4時30分

場所：名古屋市獣医師会館 講堂

参加費：名古屋獣医師協同組合病院関係者無料

名古屋動物看護学院卒業生無料

名古屋動物看護学院学生無料

名古屋獣医師協同組合ニュース定期購読者無料

その他は1,000円

獣医師、動物看護師、動物看護学生、獣医学部の学生諸氏に私はこの講演を聴講することを強くお勧めいたします。

私達は現在最新の獣医学を学びながら、それを基に動物医療に携わって来ておりますが、残念ながら西欧諸国より導入される技術が圧倒的に多く、なぜ日本は遅れているのだろうかという思いをすることが多いです。その動物医療の根本にかかわる動物に対する愛情感においても、日本になじみが無い「ヒューマン・アニマル・ボンド」という欧米起源の言葉を有り難く拝借して使っていますが、はたしてこの動物愛護に関する精神も西欧諸国から学ばなければならないことなのでしょうか？私は小佐々先生の日本獣医師会雑誌に投稿された論文を見て、日本の獣医師として、いや、日本人として誇りを取り戻すことができ感無量の気持ちになりました。

そして同時に、小佐々先生の論文中に記載されている内容を、もっと多くの方に知っていただくことがとても重要と思いました。獣医師あるいは動物医療に関係する諸氏は、前ばかりを向いているだけではよくありません。温故知新の言葉通り、先人の考え方を通じて、今の自分の考え方を直す必要があり、この姿勢が幅のある考え方ができる人として必要です。

日本の方が西欧よりはるかに早くから動物愛護の歴史が根付いていたことを知り、出来るだけ多くの獣医療関係者に知って貰い、自信や自覚を持って仕事をして頂けば幸いと願っています。

余談ですが、小佐々先生は遣欧少年使節団の一員であった中浦ジュリアン氏の子孫でもあり、講演の中で、日本の歴史の裏側を垣間見ることできるかもしれません。

どうぞ期待下さい。

学長